

2008 年度

科目名 教育実習指導（地理歴史）	対象学科・学年 文学部文財4回生	担当者 三宅 奎介
授業テーマ 中・高等学校教育実習の意義理解と教職への一体感の形成について		
授業の概要と目標 教育実習は大学における教育職員養成過程の基礎として、中・高等学校の教育現場に臨み、直接的・体験的に実施する課業である。本講座では教育実習を事前・実施・事後のまとまりに位置づけ、教員を志すものとして自らの生き方と重ね合わせ、その資質能力を高めるとともに教職への一体感を培う。従って、教育実習の事前授業では「教育実習の意義・内容・方法」を、事後授業では「体験に基づく教職観」について研究し、その修得を図る。		
評価方法 ①学習カード ②小論文 ③教育実習終了報告書 ④教育実習自己評価票		
テキスト 子どもがつながる学級集団づくり入門	著者 新保真紀子	出版社 明治図書
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 第1回 教職課程・教育実習の意義及びを理解する。 第2回 実地研修の観点から中・高等学校の学校運営について理解する。 実習手続きの指導（教務課） 第3回 人権教育の課題と指導のあり方について理解を深める。 第4回 学習指導案作成と授業指導の心得等々について理解を深める。 ＊ 実習校への挨拶・打ち合わせ訪問(各自) ※後期実習生一ヶ月前 ＊ 中・高等学校教育実習（専任教員による訪問指導） 第5回 実地研究のまとめ・発表と講評指導。※ 実習終了報告書の提示		